風流宇治物語

付り 親と知れぬ万安の不足合い
色里へ桂乃浦

二之巻 目録

第一 養子姫の古い色振中色恋こそ紙へ
果報い移て まつ嫁乃名代
聟殿の立腹も 仕業でい色色
浮んと浦と間の 京い乞母への手間の

へ13特
1622
2

第二　祝言の下絵とし　孝作

けるに実あると結れ者いこんくれ雪ゝ
ゆそみく横ゝ紙新ゝれて其のれ色安
他人向の雪うけて待ゝ祝乃動者

第三　寿者の猪と人いつゝかり

宮治乃絵代本部と深る身れ恵れ
逗若ゝ鶴づまる名鶴いあの主寿
年自い知ゝ十房題のつぶれ身体

一　養ゝ振のふいせ振ゆ公ふゝうそ作へ

青者も千恵とれば一失あるゝ易者も千恵すれば一得あるとゝ
いへども月代といちづひ下ゆ名者三ゝ月の名ゝうれへ鉛刀の
一刻ちるべゝ沿ゝそ作まる刀し何ようそ不ゝ絵ゝ
あれば一度いゝくきるゝ事もあるゝ物でゝ心れどゝいつもかく
ゆんゝくゝのりうゝいそ平生の業をちるゝ。今度の働さ
ひゝるゝそれ月下とゆりひゝうみて暗ゝ公つゝはゝるゝいゝ月の
あやまるゝとゝゆあるゝおゝへゝゝ者合ゝへひそゝふゝそゝゝけゝ月ゝ
振ゝ月いゝ〇てゝゝ競ゝ牙の使ゝ恵ゝゝ人ゝれゝふゝれゝゆゝれば。
業ゝ三ゝゝ妻ゝゆゝゝ月ゝきゝゝひゝるひて。業ゝ月ゝゝれゝて月ゝ月ゝ
いばゝゝゝ紙ゝ月ゝれゝゝ。上下さゝれ月ゝ月ゝへひまけをゝゝて月

ゆけの紙に位へ乃大きにいうて親の命とそひさけし若君と
きそひあるとすら名ふ[illegible]なれりのいとれ及ばこ[illegible]
者ひとり付ふ合ひ茅に姫ゑ前紙折て来るりのよい廃美さわ[illegible]
ゆみいこうろんのうにせーとはそ[illegible]その者とふ[illegible]
ゆこきしくりてこさし物あもこ涙あるこ丁七見紙石れきのよ姫[illegible]
れ女ふ黒船ふ付ゑこをつけ今ゑ武方あ拾ふいつさせ[illegible]方あハ
ちづらく延一法国拾ゑ[illegible]ひとりとをわれ
ぐ大形いそなよくして今的日のゆよハ山位ゑより頃ゑ[illegible]それよつき
ゑこよい姫と妻よとすべーと堅く約して[illegible]ぢとはうい[illegible]
六位殿の位そ尾よく仕ゆわせゆるゆ嫁れゑひとりぐんとをひれ
姫不ふゆゑて[illegible]ゆこせーうへいゆをひて[illegible]
親の命ゑてそひきー姫とよひくゑて妻ゆ[illegible]

はゑて義こが紙い者ゑ[illegible]
ひな者こへ姫紙つりいさずゑて[illegible]
乃ゆゑて伺をいひむされても紙よゆゑず伺り多さ大ゆくゑれ伺紙
せられていをのはくゑひつくゑくゆ大事れ別ゆ姫ひと立ていひゆし
られ人紙よすべゑひ[illegible]ゆい大位のさゑりゆゑずゆ[illegible]紙を
するゑでい位のゑを切よゆりゑくゑくゑいさゑゑ海ゑひすゆゆゑんくい
ゑりいゑゑれゆと同年にてゑゑと者を風信ゑそ伺ゑりはいゑゑゑへ
更紙もゆゑゑるゑゑや紙海ゑひすゆ紙者ゑにいゑゑんくいゑゑ紙ゑゑ
のゆゑ紙ゆ者こすゆをゑゑべいゑゑゑ伺い紙伺ゆと者ゑに位のゑと
ゑゑくいゑりの者紙ゑて海ゑひすゆ紙和よゆゑをゑゑゆりけこい
唱ゑよいゆつれ者命りどゑくゑ信とゆゑゆゑいこ紙ゆゑんと紙
改の者ゑくゑとりゆへゑ位紙ゑて者ゑのゑとゑゑ紙紙ゆ[illegible]

とろろ
ちんぐわらん
さうろき
ぐんとぐごろ

ぬりあさ
傘ニ付て
お供ゃぞ

女中とつけて今までは姫君同様にいろいろ世話をしてきたこの
おのの実母のわやあれおのの三国志の遺物として高名の侍女のはなをとりし
法寺にて貧乏の浮世一本法師のそのかの三井寺名僧名僧名僧名僧名僧名僧
みひ給ふ給ふて昂ぶりそしてよろしく一本中れ女房をいつまでもどず。
出入りの女までは市にまりて四五人の姫君の姫君のおの
し市まり市しくばらばらと破れ破れ破れ破れ破れ破れ破れ破れ破れ破れ
牌おにむひ涙とかふ者ども紙燈の女房わどもまとどめてやまず
お姫様さんはもおされぬよ中きき紙乃女の身ですこと出て乃
物礼いさいさんちとしらられば女わどもまどんやすく紙ひろ〳〵めぐ
しやわどもまばさび物おとさるとどふまてはつてふとの市動商い
うけられどもさうの人母様よい動商いうけぬすのは伝牌へひろか
とは月知らどしてどうくあと順紙あどしの面へばわどもまとと

わうとは月まいしたまおのく お姫様とはうとれたまの市いろいのおく。
て月合流者れて行きこの行ゆいのおれ人ぶう面ていおとあよあくねと
おろゆいばさやまおれ乃女ようさらあてはくはばりくろいおまんくくはもくは
まいごうやはしがおえ也れの屋としはせどもおまんの乃よいちどくの乃れ
一はくくびわどいおどさうくべくやおうとくとと出ととはろやお母
乃はとうひよ男とはどくよまくびよおくるべきぶなとの用ふくりおと
はよおくべおちまで伸れげおくべ一粒くも。燈希ろもくと浮とおくべ。
あどろまも洞ようれむおるおんざーといとんどもなとあにお後立こを
多ひてはれ行くのはさはてげ母ごあの市吉花のおくるくも名作ぎれ
ひはは海せのくと板ぐくもやどは入るくぶはくて法のくと彩くはれ
おろんおもそそれとおくはーはていおとあいどとはどくもあいくるて
これあどろまも。市紙の女ゲ母某よ名紙くもて札月るお法はくておくとこ

さうぢのをさうも最期をれば
月まぢかしてのこゝいわぢろまえにちうとそこちい冥あようあるる
ものかひあ自れおいさらぢぞうれて人まれて多てさのおとにぢ〇のみを
の中へて伊ひろうすぞよけるもみらて伊ふて落る方まよ入さ自ぐ。
今いうろ人すは公さぢうふ枝者あれて。彩姫君ぢてさのふといさうひ。
是おにひろりあ多ゝあ一ぢ。あむ涙を乃唱奉情さしい。妻房を閉蓋て
さうさのおとのうとぐきあ多。年師の月ゝ多ふまるうちちさのちへ
入りぢれもさうけおき伊ゝまる唱和礼ゝて伊まよひひ荘
蓋ふ紙ろ図い。学問ゝい閑しのるよ打爰のうぐこうそ公自〇ぢ打
おとゝ引ゝあげうしいぢさいよ姫君ゝ自ゝ多ちうて坊ゝます。唱ろ伊ろ
ろうとふひーぐ。あろ伊ゝそあけうろ打爰ゝ坊ろ。彩姫君ろ自
おもろのおうろあよいおうくろ爰の伊弟余の人多人百人ろいまを爰の姫

君の巾廻自うそ伊も姫びのうべ唱ぐ叩てあるゝいぢ自て彩姫の
姫君ぢやさ人ふおそれて氣ぐひ自ろうぢ。きづひろ伊ゝにおぢ公のゆで
ろうて巾廻自ぢさうぐきぢおりて自いひぐ姫の彩姫君ろいひさうぢさうう
をうて公い打爰の下へ西ぐろゆうて口けきべつきぐの女房きも唱ぐ
今のとぐ伊受て坊る安姫とぐきろりけるぢろる自へ三姫入ろ入さゆひ。
牌おろもひろいぢぐく廻自あうて彩姫君とゆきこれぢ公の伊いそうまぐ
ろあ母ろうれぐぢろけて巾自伊ろ自ぐ自ぐ自ぐ

まことに[illegible]てあるこれ男とおもとく迷惑てぜ友あるまとまつる事ぞまを上て
かくしかの孫ぞまをやきやつぶ一せいすくさりぞへの紙こそ[illegible]
りのいを[illegible]ぞ[illegible]ていれより梅ぞ[illegible]
とこんどとこそらひよぞのしに[illegible]
こんぞこそ今ぞとオえさすべさぞこのくよれをとげまさんがるれば
あるともおもひ釈のをも案ーおぶあんと妻おいとあんごてぞこそあい
出ねこぶぞそぞ冷青の紙あやめのおい天ぞ社竜まあづりぞもの上にそぐ
ちーんぞ[illegible]ぞ[illegible]とおんぞ[illegible]ぞこもある事ぞ。しくつげるこの
形紙ぞまちこぶいぞ[illegible]年いあるまぞ。浮むの[illegible]ぞこあ[illegible]ぞ[illegible]
[illegible]ぞ紙ぞうけられうえ[illegible]ぞ。母とあ[illegible]ぞ。釈の金とうく
ぞまとてそひ[illegible]ぞとらへいぞもく後もうと。あふ打ぞの下にかくま
あるくといぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ。用をあ[illegible]ぞのあいおうう

ちんひきて数をもちびぞ泣ぞ[illegible]おそぞのおやとけぞめ唱も用を流ぞり

二　祝言の下級とした寺作ふ

[illegible]ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぞ

母ぞ退去の仕ようもあいまいとて、ずいぶんきく人あり。ぜひ手猶の服装をと
ねだり、義子も供に行つまじ何之仕ようとあれば、ぜんぜん仕方なしとて、今日
もうどうぞつれつれと結構なる法要いろあるうちあるべきと、金銭
義づくひやうにて別事なく、ゆるる服装、ひとくるもひとくるも
それなる義子がけてきたれば、契約の通り只今婚と盃はさせるむ
年さくさくとあて、婚姻のれむすびいとぐけきた只今もうれはいつぐ
ごく。母未明まで婚が事といひ、ぜひ今日の仕れおいで盃とさするい男
姑あいるんでことぶき紙をすんちゆて祝言の盃い仕合ざる事とろ
きくいおりぶぐ仕ぐ、ぜつで婚礼の仕ぶ、自家と婚よ去せ、ぜひ門出と
焼まで葬式のまるべさしぶぐちそのむすびれ盃い祝ぐそもおい事。
ちと精をぬぐ病ぶなと、怪びのあまり入乃ぜ、けをのうへ、ぜ房生
ひのあきおあそこと盃祝ぐと祝おぜん服装おうとあそべして。

舞屋ひとあり、木ぐあれ木ぐあれとイいおりあけて婚い盃ありて義三ぐ祝ぐ
義三盃ぐさうけど片ぐ仕つそけいうあぐ市移ひうれあり、あり
木どの、義さ母、市義さのひくいへばぜんぜんぜんぜ、舞屋の婚
ての祝ひしいいぐどあれば、さんいさ義市生実の服装市あおとあされ
ねまぐ市契約とんぐくられとこれあり唱の婚仕市生ぐれあそいされ
先服装のおろ仕付まとけさうー婚妻よくさうー服ぜおの西門寝加
ふうのー仕合有ぐくまねいたうー婚装市生ぐのさうされおしく婚礼
仕いいねぼまう実の服装ろうー入せるひ入れ（市猫ぐ好ーれひそ）ぜ服
あぐくー私ぐ年ーねきふあひ一今すーうー服ぜ石ぐうくまぐ服ねぼこしの
ろうくされお出ーまいた市部畳れゆうされ体ーとの市ぐ去仕ぐありうく
まねいその有祝いー実生婚装い濃ぐ才体ー恵ーぜうーと
よせまいゆくー私ぐきーうぐまぐそれゆくあおとあさうーと服装と

仕れい拙者婚姻お海では兵ゆせもんと夫婦に成せるつ時
八侍者の所中へ入及ぶ所中の者まで皆こそ方後の田舞面
を賞ぶ人は舞よりあてで月じ面中れ唱が舞〳〵ぬて月面それ姫君い
体を思ひとられとじろ指と指と笑られんあと只指く以へ手て海の
ざうさのおさうんかりて出りるく拙者の方へ引よせ右に仕えいは脇
進のすれれゆ〳〵ぐされないばしこの田舞面とけぐうるくりあぐれば
入乃は左衛の今とそしさあおとせ一指と行ふふさび舞面とゆう
ぶ歌の代の謡と切りい御へも同おいてや乃ぐ人会沈界に謡拙
まは歌そも見ふらば中くまでい長れおね全く方後の舞面
いのと金〳〵及ぶれ人出みば指ひ界ふと〳〵とありれいおれと
と義こ重代ちこいぐかんとする赤を唱つりくとあそく義と出盃代
ちかれとて名者ゆもかく新姫君の祈りけ引ぶ上者と引あり

謡つきにさ一番いぶ乃拙ろさ唱見い奥ぐろ仕とざ酒ふて一舞けこ
不れ今方御赤の出りすれ御ちふるまひきろ〳〵いりと乱ちと変て
いりられい唱ちりもさはげす拙者姫のぐさんち御出長女ふられあ
さ及れがりられれと作ゆ〳〵ずかち拙と現左の拙と拙とつけ手代
にいておまわらひて住ろいおれさいろさのなること邪におまへのれ
長安及ろりていお一ろそもあいられぐあられ人々義こと人会の才こ社拙
出せうと作行ろと上ろ〳〵御舞面の姫君と釈子の田舞いきうせられ
あり〳〵いまざれうんちゆくりるれいおるでないこいりされいぐ〳〵ろさのお
さ及申舞ろこ〳〵私りむすあ代ころれおの出ろ代〳〵拙ふそい舞代
そ長出ぐみおいとろゆ〳〵出ろれまろせて拙ろん〳〵おあ〳〵ひさう
せ一人乃拙と出者ろにいあげませ一が出人姫君の出血ごらきれ代出い
ひ女いろのまろ〳〵りの拙者ろ拙面ろうのろられかろいぼなろう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]紙屋[illegible]拾ものゝ拾ひ[illegible]
[illegible]べきなり。そはで拾ふ[illegible]
[illegible]こと[illegible]
[illegible]

三　希有の繪とゝいつよりの事

[illegible]の[illegible]代[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

旦いと[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

彩りされいなる義よりあり。中ほど使へ中間ふかくでと行くられだ
義と出て義と出るまわりの名と名と掛て三位入乃名と掛て。
名のほに出細いなーぞつとあきして五位の名とうんと多くいぶかまも
ぬいど同じくらそぞよ三ぞ赤面ふなられい豊後ぐらもひて。
き度ぐらの字変ぞ表代までも掛名紙射てを表院の出仕とたとけ
ちもとつぞ我家の感状の名細とぞいに三万あれ彩りの今紙れなつひ
なしてぞちくのひ全れ才芸ふ。武万あて変換らく彩紙いよくぞ出
よつきられるこの出紙は古来別出細い古来別出家位ぞこれつざいて。
うあるつあ盗ぞ二万あよ変れあひ。わ友ぞ家の変い今ぞ豊ぞの出ぞ名
らしぞ名の中とちぞされてぞなの変細ぞあふろいみい事とあざ矣て
かうけぞ三位今乃ぞされけどんぞ下ぞ名義ぞとびよ也ぞ名細へ
ぞ名る二万あいぞのぞ名ぞ名細続て細ぞくぞ也ぞ名ぞ名れけ

しゆへ出細とぬとんで変わるぞやいあの出細ぞくるあぞ彩るれぞぞねぬ
らに今紙れの名変いるのまねぞ。ぞ位入乃ぞ名ぞいとのぞあゆへとるるぞと。
いる名る眼ぞ乃血乃細名ぞぞぞぞぞ。ぞ位ぞ名ぞでぞあるぞ名ぞ豊後ぞぞぞ
名ぞ名ぞ名ぞぞぞぞぞ。ぞ変ぞれぞぞて義ぞぞ名ぞ彩ぞ名ぞ名ぞぞぞ。
ぞぞびのぞて今れ武万あのぞあふぞぞぞいぞ名のぞとぞいぞのよいあぞ
ぞるぞぞ名ぞ名ぞぞぞぞぞぞ。今紙ぞ入ぞの彩ぞぞまるぞぞぞ
ぞさぞぞぞれぞぞ名ぞ唱ぞるぞぞの名紙掛名紙ぞぞぞぞぞぞ名
乃乃ぞぞぞ出今後ぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞ。
彩紙掛名ぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞ
友須藤ぞるぞぞ。今紙ぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞ
の名代ぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞ
ぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞぞ

しゆやうのいぢやうをうつ西宇今海もそれをよく知ぬ大事の場にて
亀徳れ一人と罷あるすとめさいをあ海でこそあるべたかさ紙うけてい
夜伏へよるいさ扱い海が始をもつて義をに紙と紙ぞあのしすびを
せいよつて夜人てを夜と最科よちづめ法をゆ夜と自由てさんとの
負くこう。ひとしもよりぬ事。仏競が目の見さ円いゆ中く及ぐめ負くこ
たとて紙吐ぐとちをつて拾うと。負すく紙ゆそうのれべくおれども
こうをや競かふ凡をそれ伊食後のといあ夜いとられね海がひとり地の
てし今紙のうれられいひそをけまべけまれねそあ夜さ負をうを被な
負ね出べいを姫よ及ぶ負ぞめぐと出光使あつて今れをはるふおされ
伊をけ。出あはい負人伏をそれ入をさ負ぞ海さぐよおいるされね
ゆをれ。出ふ紙伏ふ紙くと懺悔あれをけまべ負紙ち使うしをう。
ち人う負系がよ負べをうをつあ家の知りを紙されのうをよ。

四万五千人に九十万騎をつひはぐ。ぐにてい勝とかんで悔てし
うてね仕合いゆ。ゆ天出越度伏けうぐおくうんうしありとちかく
ぐをてをうるしべ。夜伏紙とれ打。さそく希有のおごりうかいづれ天命にて
伏きうちべき紙伏紙くぐうそ負にも及ぐべ。ぐ人すぐに子あへ法引
うすぐ。ずらぐん六法殺をおめていひねうるゆうに入まをりさぐ。負
つうひ拾うをて。ゆ。れ紙うちれをべ。ぐ伏負よいおるひ方海ぐきて
覚うう。出妄法のりべ。ゆぐおいうあ夜い海ちま負徳を中にうを
こう。六法殺へゆうて。ぐ伏入ぐい今ぐ紙うみのりぐれ口れと紙会し。
洞よ神をぐちぐまこう。海う唱先負ぐ伏れてうをゆを拾ちゆ
執行け。殿の舞よ負べきうあ出級とねをんで考うぐ出れの悲
歌謡引をする曲ものとえるひふ伏い海ゆあのうを拾一人をうぬめ
よううて拾られべ。ぐ今ぐひひうもへおるうぐ海ぐおうを中国ふり

けけぢりの紙にて入てうける。酒に競ひよおんて唱がとくへゆんとする
ところをとめ屋ののこれを倍せとて手あうける紙ひろうとこゞじゃ、
きてじすみ競せくみ酒ロそこはゑ細いひまけのうといとゞし競宴入
どゞ。遊徳れいそのまゞにゆくあ伎引さて。手あへ伽ひ行わるといを為
う退敗ら手手でいろう結いねいもれしる事。義こ紙はあの無歌と。
人めこい縄をうけ紙舎こみする相性でゆゞゑ屋と恵れものいひ
ゑてこ。義こめいけあの無おのきいけとの歌のゞこねゆねく打うけ
ろ紙唱制しゞろひこうや一こいよ月ゆそ行れゞひしせね独相よい。
大ふとけこすしあげあしゆくみする紙きこ稼ゞそれゞとゑ屋の無あうを
ふこう独ひあいこしうりなり。柿はあの人紙を手ゑ伎揚屋から
いちくとゆこうこもう方と手あよりこゞ人屋せこるゆへ引うこの
いひけるこよおいこやいこの色ゞひいとこいよりこ。

せしと遊徳ゞにもれ合ゞうこ。手あへ伽ひ
ありしこそのひけこのいこくこいふいこ客のこれ紙紙主はひうんを
おゞめうこ。ま黒相紙と由このこあるひよんこ。こ紙入ゑ屋は同ふ
あうこ二三年けここ客くに須孫の人をあり。歯は手あこうんあ
まへ。君ゑうこい大ら主しめこ。法ふの伽氏とすよこうんと紙こ
十ゑこ使ゑうこ。聞くへまいし。あここる具合相ふい伽あの紙歯の
宝人ゑ紙。伽百人ゑめくこて接おしあまゆへ大ゑの人紙人あれゞ
へゑ。こ去によこて手あのゑりのたに人紙入角のこけをこいれ近客ふ
こゑりこいまいゞころ須ふへかよゑくと。宛こんけゑ。こみひゑこよ
しこあ屋ゞこゑ果こよ神こせゞ。相紙入ゑこ出あこはくゞふ。こ
ふくきいこゑ人ふのこやれふゞ紙ゞ。こ立も成紙ゑゑうのこありひ。お
いこけこういけひいまゞこ。はゆへよ遊ゑこあこ屋ゑまいよせこ。

うゑひてうゑんてうゑゑゑとゑゑ紙うゑれば競ゑとお。我にもう異
の和ごうで四くはあていめうれぐ。今紙のひけうこの約ゑれ返言
うはぢうくゑはうざうぞ。あくうれそちハゑ重ふうゑ男うゑ。
りうくさ。ゑゑひよゑ紙あイ一ゑいぞんゑ度のゆゆうこと紙りうゑくゑが
ゆまいぞうざあくゑんえぐれよ。あうんついて、約べてと二人つまて言さう
へぞのひてうそいゑよれ

二之巻終紙